原発事故被災者
相双の会

NO. 6

発行日
2012 年 10 月 25 日
連絡先
國分富夫（会長代行）
住所
〒965-0013
会津若松市堤町６－12
電話 090（2364）3613
メール
kokubunpi-su@hotmail.co.jp

原子力規制委員会
第１原発廃炉作業中の事故を想定し　避難指針作成へ

日本は世界最大の災害国

日本の国土は地球の陸地の 0.25%でしか有りません。マグニチュード６以上の地震は20.8%が日本で発生しています。活火山７%その他に台風、大雪があり日本は世界でももっとも割合が高い災害国です。地震をはじめ自然災害の多い国土へ 54 基の原発を稼働し、日本の原発密度は世界平均の 186 倍です。

もう逃げる所がない

狭い日本へ 54 基の原発で、福島事故をおこしたのに、電力会社はさらに原発建設を予定しています。放射線量は 0.6 マイクロシーベルト以上は本来は管理区域でレントゲン室の中みたいなものです。低い線量だから安心とは言われない。100 ㍍も離れると高い所もあり、立ち入り禁止場所に値します。見えないし、臭いもしないから特に子どもたちが心配です。でも、生活ができないから、行く所がないから私たちは我慢するしかないのです。

10 月 18 日の「福島民友」新聞は次のように報じました。「原子力規制委員会は、事故後に不安定なままの原子炉に関する防災対策を指針に盛り込む考えを示した」。これは福島県生活環境部長が規制委員会の意見聴取で**「普通に稼働している原子炉とは全く違う。廃炉作業の中で避難を想定した指針が必要」**と求めたことに応えたもの。その際「避難指示区域だけでなく、人口が集中するいわき市などの避難を想定する必要」も求めたといいます。１～４号機は普通に稼働している原子炉とは全く違う、危険な状態が続いています。私たちはいったいどこに逃げたらいいのでしょうか。

10 月 13 日山形市内の講演会に多くの避難者も参加

山形県内三ヶ所で
「原発いらない」講演会が開催

米沢市、山形市、酒田市で国学院大学教授菅井益郎先生を招き講演会が開催され、3か所とも大勢の避難者も参加されました。

福島県から山形県への避難者は全国で一番多く 11,000 人、安心、安全を求めて山形へ避難したのです。アメリカのスリーマイル原発事故、旧ソ連のチェルノブイリ原発事故の報告、特にチェルノブイリ原発後の住民の実態、福島原発事故の中味と放射能などを分かりやすく講演していただきました。各市の講演会終了後、避難者の方と懇談し、「相双の会」の活動などお伝えして今後連携をしていくこととしました。(國分富夫)

農業をやめたい

⇒ 46%

（南相馬市の調査・小高区）

南相馬市が旧警戒区域の農家を対象に８月に実施したアンケート調査の結果を公表しました。９月２６日の議会全員協議会で、詳細な報告がありました。

小高区の主な集計内容は、以下の通りです。

【１】今後の営農をどうするか

① 経営規模を拡大する・・ 1.9%
② 同じ経営規模のまま・・18.6%
③ 経営規模を縮小する・・ 4.5%
④ 農業をやめたい・・・・46.3%
⑤ 迷っている・・・・・・27.4%
⑥ 無回答・・・・・・・・ 1.3%

【２】営農を続ける場合、どんな形態で

① 個人（家族）経営・・・38.2%
② 数戸での共同経営・・・ 8.6%
③ 大規模法人組織経営・・ 5.9%
④ その他農業法人経営・・ 9.5%
⑤ わからない・・・・・・14.7%
⑥ 無回答・・・・・・・・23.0%

【３】住居の移転の考えは

①移転を希望しない・・・36.6%
②国道６号より西・・・・ 2.0%
③国道６号より東・・・・ 1.8%
④鹿島区や原町区・・・・ 9.9%
⑤市外・・・・・・・・・ 7.7%
⑥迷っている・・・・・・19.2%
⑦その他・・・・・・・・ 5.4%
⑧無回答・・・・・・・・17.4%

「やめたい」「迷っている」人の合計が、**73.7%**に及んでいます。

さらに、小高区以外の地を含めた**住居移転**（迷っている人を含む）を考えている人の合計が **40.6%**に及んでいます。

このままでは農業の維持・農村の維持そのものが成り立ちません。小高区全体の存亡の危機にあります。双葉郡内８町村はもっと厳しい状況にあると思います。抜本的な対策が求められます。それも緊急に。（※小高区の回収率は 56.4%でした。）

３月 11 日から１年７ヶ月も農業から離れ生産者から消費者となり、内部被爆を恐れ、特に子供たちの食べ物に気を使わなければならないむなしさ、こんな事が何時まで続けなければならないのか先が見えません。

声

声

ふる里の思い出は楽しかった事ばかり
原発は全てを奪った
許せない、後世のために

在　会津若松市　浪江町
亀田安子さん

人間歳をとると残りの人生を有意義に過ごしたいと新たに〝人生設計〟を描いたり見直したりしたくなる。私も真にその一人だった。ところが、3. 11 の大震災、そして最悪の原発事故で一瞬にして設計図が闇に葬られてしまった。原発事故さえなければ今頃は、ふる里で復興に向け日々汗を流していたと思う。すでに復興し終えていたかもしれない。

放射能から逃れたい一心で無我夢中で逃げてきたこの地、会津若松市、すでに一年七ヶ月余り、帰りたくても帰れないこの現実。家族は二分にも三分にもされ、子供たちは住み慣れた町、学校も追われ友と離れ離れにされ、お年寄りは仲間とお茶飲みさえも出来なくなり避難途中にして命を縮めてしまった方もいます。

生まれて初めて借家住まい、仮設住宅、寒い!暑い!と子供が泣くと隣に気を使い、大声は出せない、ストレスは計り知れないものがある。

東電、国は私達の心情を分かって居るでしょうか？

先日 10 月８日五巡目の一時帰宅、動物に掻き回された家の中、屋敷内の背丈まで伸びた草、ただ見回りしただけで町を後にしました。この悔しい、悲しい気持ちを何処にぶっつけたらいいのか憤りを感ずる。

原発はもうこりごりだ。私たちは事故の恐ろしさ、放射能の恐ろしさを後世に語り継ぐ義務があり、被災した子ども、若者達を見守っていく役目があると思っている。

太平洋から顔を覗かせる眩しい朝日と、山に沈む夕日を見られるのは何時になるのか、ふる里で離れ離れになった家族が全員揃うのは何年先？何十年先？

長いトンネルを抜けるまで歩き続けよう、希望、夢は失いたくないから。

私の再出発

在・喜多方市　南相馬市小高区
板倉好幸さん

原発事故からあっという間に一年半が過ぎてしまった。いまだに整理がつかないでいます。我が一族は 2011 年 3 月 12 日大地震の翌日小高工業高校体育館に避難していた。原発が爆発したテレビを見ていたら直ちに避難指示がでた。迷うことなく原町区石神の体育館に向かうため、先日から敷いて置いた布団等を片付けが終わると親父の姿が見えない、見失ってしまった。あちこちの避難所の名簿を見たが父の名前はなかった。翌日（13 日）石神体育館から相馬市に集合して、家族 12 名で福島市に向かった。父の消息はまだ分からない。次女はお産の月に入っているため、無事に出産出来る所へと思い、友人宅へお世話になることにした。こたつに入り暖かい布団で寝ることができこんなに有り難く思ったことはない。しかし、友人への気遣いもありましたが、もっと遠くへ避難しなければと

思い、会津若松市河東体育館へ避難しました。

娘は無事４月 11 日に女児を出産しました。娘の嫁ぎ先は津波により流され両親が亡くなりました。生まれ代わりのような気がします。

一緒に避難してきた長女娘には二歳の男の子がいます。毎日運動会のように元気に跳ねまわる姿を見て癒されました。持参した長座布団、毛布で肩寄せ合い三ヶ月、赤十字の医師、看護師が常駐、暖かい食事が用意され大変お世話になりました。一時帰宅で帰宅する度にこのままでは駄目だ、「何とかしなければ」と、思ってきた。

11 月５日長女が女の子出産した。避難生活で、嫁いだ娘たち、妻の母との生活が出来たことは幸せだったかも知れません。

帰宅の度に商売の機械が錆びていく、無事だった商品、震災前から考えていた自分なりの人生の終わり方、全て狂ってしまった。３月になると年金が支給される。のんびりとこのまま暮らすかと思っても歯車が外れたままではどうしょうもない。できるだけ元の生活に戻さなければと思いが強くなり、５月になって決断した。「自分にはやり残した事がある」「自分は職人だ、手職がある」工房を会津喜多方市へ移転した。ゼロからの出発と云うよりはマイナスからの出発である。機械を運んで来れば何とかなると思っていた。そんなあまいもんじゃなかった。20 人のボランテイアにお手伝いを頂き、機械持ち出し準備のための片付けが連日続いた。ゴミは出せない。「何が復興だ」イライラする。

喜多方の工房（工場）へ４屯トラックに６台運んだ。何とか格好がつきましたが、予算は大幅に超過してしまった。今後、南相馬小高区の工房（工場）では出来なかった事に挑戦していくつもりだ。

現在は開店休業状態であるが、開発新商品が完成しつつある。家族は最近前向きになり明るくなってきた、有り難い事です。

是非、私の商品を見に来て下さい。

住所　〒966－0003　福島県喜多方市岩月町檀野字白山前 302－4　板倉 好幸

携帯　０９０－９５３４－５６５７

私の作品です